



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	高齢者における地域を基盤とした人々とのつながり：概念の明確化と測定尺度の開発〔論文内容及び審査の要旨〕
Author(s)	菊地, 真海
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(看護学)
Dissertation Number	甲第16042号
Issue Date	2024-06-28
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/92729
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Mami_Kikuchi_abstract.pdf, 論文内容の要旨



学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（看護学）

氏名： 菊地 眞海

学位論文題名

高齢者における地域を基盤とした人々とのつながり：概念の明確化と測定尺度の開発

高齢者における人とのつながりは、人間の基本的ニーズであるとともに、つながりの保持は身体的健康や well-being に関連している。さらに近年では、死亡率や抑うつなどの健康状態との関連が明らかにされている高齢者の孤独と孤立の課題に向けた支援アプローチの一つとして、重要性が指摘されている。人とのつながりを健康指標の一つに位置付けることは、孤独・孤立予防に資する地域保健活動の検討の一助となり得る。

また、高齢者における人とのつながりは、地域での自立生活の継続に関する中核的要素であり、地域の人々は重要な地域資源となり得る。高齢者における人とのつながりを理解し、明確なエビデンスをもとに地域保健活動を展開するためには、「地域」を基盤とした人とのつながりを考慮した概念を現代的文脈から整理することが求められる。

従来、人とのつながりの測定方法は、ネットワーク規模を数値化する客観的指標が広く用いられる。しかし、ネットワーク規模は加齢とともに縮小するため、既存の客観的指標の制限に対処し、主観的な人とのつながりの認識を測定するために設計された主観的指標の開発が求められる。

そこで本研究では、高齢者の地域を基盤とした人々とのつながりの概念を明確化し、本概念に基づき、高齢者自身が捉える主観的な地域を基盤とした人々とのつながりの認識を包括的に測定するための測定尺度を開発することを目的とした。

研究Ⅰ. 現代的文脈における高齢者の地域を基盤とした人々とのつながり：概念分析

目的：現代的文脈から「高齢者の地域を基盤とした人々とのつながり」の概念を明確化することを目的とした。

方法：Walker and Avant の手法に基づいて概念分析を行った。PubMed, MEDLINE, CINAHL, Web of Science の各データベースを用いて、2010～2023 年に英語で発表された査読付き論文を対象とした。検索の結果、270 件が該当した。除外基準を、地域在住高齢者以外を対象とする、特定の疾患やサービスを有する者を対象とする、つながりについての詳細な記載がない、として検討した結果、最終的に 25 件を分析対象とした。

結果・考察：属性は【交流により生じる地域への帰属感】および【相互関係により生じる一体感】であった。概念が生じる条件である先行要件には【交流に至る心身状態を含む個別の性質】および【受け入れられている実感がもてる環境】があった。また、概念が生じた結果である帰結として【健康的な心身と自立生活の維持】、【困難を乗り越える力の獲得】、【共生に伴う人生の意味づけ】が示された。高齢者の地域を基盤とした人々とのつながりは「交流により生じる地域への帰属感や相互関係により生じる一体感の認識」と定義された。高齢者の地域を基盤とした人とのつながりは、身体的・心理社会的健康を含む包括的な健康に関連する概念であった。

研究Ⅱ. 高齢者の地域を基盤とした人々とのつながり観尺度の開発:パイロットスタディ

目的: 研究Ⅰに基づき高齢者自身が捉える主観的な地域を基盤とした人々とのつながりの認識を包括的に測定する、「高齢者の地域を基盤とした人々とのつながり観尺度」の開発に向けた尺度試案の構築を目的とした。

方法: 開発方法は古典的テスト理論に従った。フェーズ(1)は概念分析とキーインフォーマントインタビューの結果をもとにアイテムプールを作成し、内容妥当性を確認するための専門家チェックを行った。フェーズ(2)は表面妥当性を確認するためのプレテストを行った。フェーズ(3)は北海道旭川市に居住する65歳以上の男女800名を対象にフィールド検証を行った。妥当性は、探索的因子分析による因子的妥当性および相関分析による併存的妥当性を評価した。併存的尺度には、生きがい意識尺度と孤独感尺度を外的基準に選択した。信頼性はChronbach's α 係数の算出により内の一貫性を確認した。

結果・考察: フェーズ(1)および(2)では、内容妥当性と表面妥当性が確保された30項目が確認された。フェーズ(3)では、337名から回答があり、全項目に回答した309名(有効回答率38.6%)を分析対象者(男性46.9%、女性53.1%、平均74.0歳)とした。探索的因子分析により、「包摂性の認識($\alpha = 0.941$)」、「供与による互惠性の認識($\alpha = 0.915$)」、「受容による互惠性の認識($\alpha = 0.928$)」の3因子22項目が抽出された(尺度全体 $\alpha = 0.967$)。併存的妥当性は、尺度総得点において生きがい意識と有意な正の相関($rs = .453, p < .001$)、孤独感と有意な負の相関($rs = -.307, p < .001$)を示した。本研究から、信頼性と妥当性を有する尺度試案が構築された。

研究Ⅲ. 高齢者の地域を基盤とした人々とのつながり観尺度の開発:信頼性と妥当性の検証

目的: 研究Ⅱで構築した高齢者の地域を基盤とした人々とのつながり観尺度の信頼性および妥当性を評価し、地域保健活動の実践現場で活用可能な尺度として確立することを目的とした。

方法: 北海道札幌市に居住する65歳以上の男女1000名を対象とした。妥当性は、確認的因子分析による因子的妥当性および相関分析による併存的妥当性を評価した。併存的尺度には、生きがい意識尺度と孤独感尺度を外的基準に選択した。信頼性は、内的整合性法によるChronbach's α 係数、テスト-再テスト法による安定性係数によって確認した。

結果・考察: 380名から回答があり、全項目に回答した358名(有効回答率35.8%)を分析対象者(男性47.8%、女性52.2%、平均72.3歳)とした。確認的因子分析により、CFI = .933、GFI = .854、AGFI = .818、RMSEA = .081の良好なモデル適合度が示された。併存的妥当性は、尺度総得点において生きがい意識と有意な正の相関($rs = .524, p < .001$)、孤独感と有意な負の相関($rs = -.183, p = .001$)を示した。安定性は、尺度総得点の安定性係数が.875(95%CI: .830 - .908)の良好な値が示された。開発された尺度は、十分な信頼性と妥当性を有していた。

結論

明確化された概念は、地域ケア専門職の高齢者における地域を基盤とした人々とのつながりに対する理解と共有の促進に貢献する。また開発された測定尺度は、汎用性を有しており、地域での看護実践において高齢者の主観的な地域を基盤とした人とのつながりの認識を測定する際の活用が期待される。今後、孤独・孤立予防にむけた地域保健活動にあたり、高齢者本人がとらえる地域の人々との包摂と互惠の観点を重視して検討する際の一助となることが示唆された。